

中学校歴史的分野における価値判断を問う討論型授業の在り方 —鑑真を「選択の基準」として奈良時代の特色を大観する—

坂田 元丈

富山大学人間発達科学部附属中学校

1 目的と方法

時代の特色は、その時代がどんな時代であったのかを解釈することで捉えることができると考える。さらに、価値判断を迫る学習課題があれば、見方考え方もより深く高くなると考える。奈良時代の特色は天皇や貴族のリーダーシップによって中央集権政治が行われたこと、使節派遣により大陸の文化や仕組みを取り入れることができたこと、農民の税負担や貨幣の発行によって都城整備がなされたこと、天皇や貴族らの政策によって仏教文化が栄えたことなどが挙げられる。そこで、奈良時代の特色を大観するために、「鑑真は奈良時代の日本をどう思っただろうか」という学習課題を設ける。鑑真を取り上げた理由は、天皇や貴族、農民といった視点ではその立場が直接的であり、現代人（生徒直接）の視点では現代との比較のみで終始してしまうため、鑑真であれば、間接的・客観的に当時の日本の特色を捉えることができると考えたからである。

価値判断力を高めさせるために、授業では(ディベート的な)討論を取り入れた。討論は学習者が自分の立場と相手の立場との共通点や相違点について比較・分類することが可能であり、異なる視点や価値観に気付くことができる。また、自分の見方考え方を根拠付けるものに留意したり、同じ根拠であっても違う解釈が成り立つことに気付いたりすることができることから、思考力・判断力・表現力等を育む効果が期待できる。

2 内容

奈良時代におきたできごとを、内政、外交、社会・産業、文化の4つの面から資料を用いて捉えさせる授業を行う。これによって「奈良時代は～することによって…が行われた時代」という概念的知識が身に付く。この概念的知識を積み重ねた上で、「鑑真は奈良時代の日本をどう思っただろうか」という学習課題を設けることで、判断場面が設けられる。判断する際には「選択の基準」(判断基準)が必要であり、「鑑真の生い立ちから解釈した鑑真の見方考え方」を論点とした討論を行う。そして今回は「選択の基準」を、「争いごとが嫌いであった」「貧民救済など貧しい人々を救うことに熱心であった」「戒律に従った正しい仏教を広めることに熱心であった」の3点として討論を行った。

3 結論

授業で扱っていない資料を根拠に新たに論述式のペーパーテストを作成した。価値判断を問う討論の授業を行ったクラス(以下、実験群)と、実験群と同じ資料・学習カードを使ったが、討論の授業ではなく教師による講義形式の授業を行ったクラス(以下、統制群)で解答させ、正答率を比較した(この2群は他の調査から見ても等質であり、この問題を解くことは事前に知らせていない)。統制群では誤答・無答が相次いだのに対し、実験群では、価値判断力を転用して正答に導くことができた。このことから、価値判断力を高めるために、討論型の授業を行ったことは効果的であったと言える。